

2025年大阪・関西万博に向け 和歌山県が目指す主な取組

令和5年12月
和歌山県万博推進課

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催概要

名称 2025年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）

開催期間 2025年4月13日～10月13日

会場 夢洲（ゆめしま）（大阪市此花区）

想定来場者数 約2,820万人

【内訳】

国内（関西）：約1,560万人

国内（関西以外）：約910万人

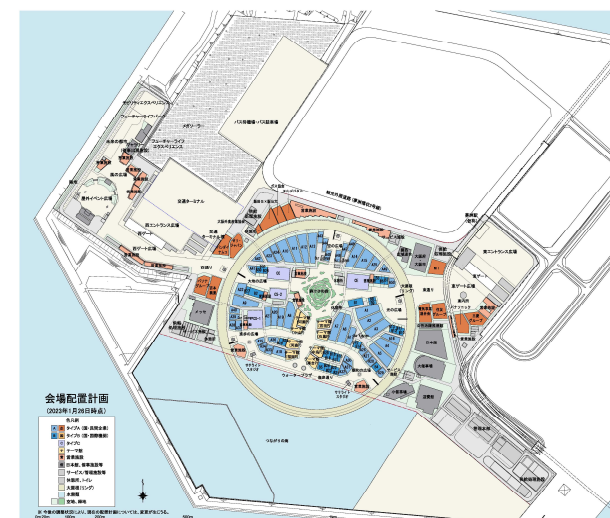
海外：約350万人

テーマ **いのち輝く未来社会のデザイン**

サブテーマ Saving Lives（いのちを救う）
Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト **People's Living Lab（未来社会の実験場）**

< 万博会場イメージ図 >



（提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会）

2025年大阪・関西万博を通じて和歌山県が目指すもの

大阪・関西万博の開催を契機とし、和歌山県の魅力を国内外に発信することにより、本県の認知度向上を図るとともに、観光誘客の促進やビジネス機会の創出を目的とする。

テーマ：将来世代に繋がる和歌山の未来を創造

観光振興

- ・ 和歌山ゾーン
- ・ 和歌山DAY

産業振興

- ・ 和歌山WEEK
- ・ 空飛ぶクルマ

地域振興

- ・ エリアでの万博出展
- ・ 子供の万博参加

目指すべき姿：和歌山のプレゼンスの向上と県内各地域の振興

万博でのアプローチ

和歌山ゾーン

和歌山の精神文化から育まれた多様な魅力を表現

- トーテムによる映像表現
- 和歌山の食の提供
- リアルなパフォーマンスの実施

和歌山DAY(仮)

和歌山の魅力をステージパフォーマンスで発信

- 歴史と先端技術の融合
- 県ゆかりのアーティストによるパフォーマンス

和歌山WEEK(仮)

世界で通用する技術力を持つオンリーワン中小企業等の発信

- 人・モノを呼び込むゲートウェイの役割

空飛ぶクルマ

次世代モビリティ産業の創出による産業振興

- ビジネスモデルの創出
- 離着陸場の選定
- 実証運行ルート参入

地域資源魅力創出

振興局が中心となって地域の魅力を創造し、万博を通じて発信

- 学生や企業とのマッチングによる地域資源の開発

子供の万博参加

未来の世代を担う小、中学生が、未来社会の革新的な技術やサービスの体験として万博参加機会を提供

- 県内学校の校外学習先への促進

機運醸成

万博の成功に向け、イベントや情報発信などを通じて、県内全体が自分事として万博を盛り上げる醸成を図る

- 「2025年国際博覧会和歌山推進協議会(※)」を設立
- 機運醸成活動(機運醸成イベントの開催、県内各地域で実施されるイベントへの出展、広報媒体を活用した周知 など)
- 情報発信(メールマガジンによる万博情報の発信、セミナーの開催 など)

※2025年国際博覧会和歌山推進協議会とは

万博の成功に向け、機運醸成を推進し、県内への誘客促進や企業等への情報発信を目的に、和歌山県商工会議所連合会及び和歌山県が共同代表となり、産学官金などの団体により構成された組織

観光振興

和歌山ゾーン

関西広域連合が設ける「関西パビリオン」内に「和歌山ゾーン」を設置し、和歌山の精神文化から育まれた多様な魅力を表現

関西パビリオン 概要

コンセプト

いのち輝く関西悠久の歴史と現在

出展参加の主体： 関西広域連合

出展参加府県： 滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、**和歌山県**、鳥取県、徳島県、福井県、三重県

基本構成：
① 関西全体を表現する展示スペース
② 出展参加府県による独自展示スペース
③ WEBパビリオン

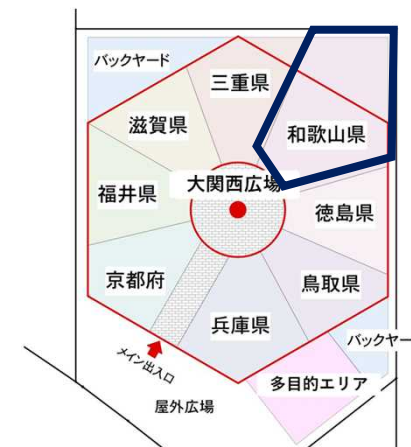
会場地図



< 関西パビリオンイメージ >



< 内部レイアウトイメージ >



(提供：関西広域連合)

観光振興

テーマ

和歌山百景 — 霊性の大地 —

神話の時代から続く和歌山の精神文化から育まれた、自然・人・産業・食・文化などの多様な魅力を「和歌山百景」として表現

コンセプト

“上質”のつまった和歌山

出展意義

和歌山が育んできた精神文化は、多様な価値観を尊重し合う「持続可能な世界」を実現する日本的モデルとなり得ると考え、これを展示によって表現

展示構成

3つのコンテンツにより構成

●映像コンテンツ：

紀伊山地の巨木も彷彿とさせる映像タワー「トーテム」に、自然風景や神話や歴史などを映し出す

●センターコンテンツ：

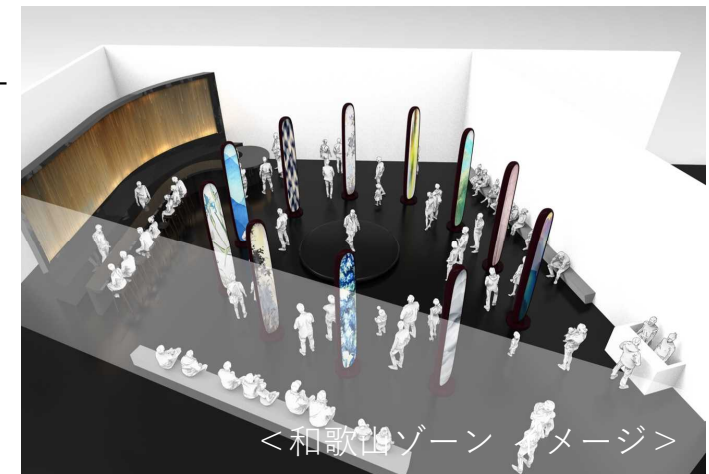
中央ステージにて「和歌山の今を生きる人」に焦点を当て、多様なパフォーマンス等を発信

●フードコンテンツ：

カウンターバーにて、豊かな和歌山の食の魅力を提供

集客目標

30万人



観光振興

和歌山DAY (仮)

万博会場内の催事施設にて、和歌山の歴史文化等の魅力を世界へ発信

内容

県内で活躍する学生や県ゆかりのアーティストによる、和歌山の歴史や伝統文化と先端技術を融合したステージパフォーマンスを企画

目的

国内外へ魅力を発信することにより、人や投資を呼び込む



(2025年日本国際博覧会協会資料抜粋)

※施設の規模や仕様は、今後変更する場合があります。

産業振興

和歌山WEEK（仮）

万博会場内の催事施設にて、和歌山の地場産業等の歴史や技術を世界に発信

内容

世界で通用する技術力やSDGsに資する取組を有する県内の中小企業者等によるブース出展やステージでの企業PRを企画

目的

- 企業の成長促進、販路開拓
- SDGsに対する企業の関心度の向上



(2025年日本国際博覧会協会資料抜粋)

※施設の規模や仕様は、今後変更する場合があります。

産業振興

空飛ぶクルマ

万博を契機に、空飛ぶクルマ（※eVTOL）の運航実現を図る

※eVTOL（Electronic Vertical Take-Off and Landing aircraft）とは
垂直に離着陸し、ヘリコプターやドローン、小型飛行機の特徴を併せ持つ電動の機体

内容

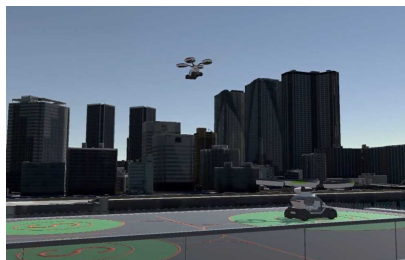
- 大阪・関西万博における遊覧飛行など空飛ぶクルマの**実証運航**
 - ・万博会場から県内までの安全かつ効率的な運航の実証
 - ・空飛ぶクルマの飛行に必要な離着陸場の設置などの体制・環境整備
 - ・空飛ぶクルマへの社会受容の醸成に向けた県民などへの情報発信
- 万博後における**商業運航**としての活用



目的

次世代モビリティ産業モデルの創出による産業振興

<ポートイメージ>

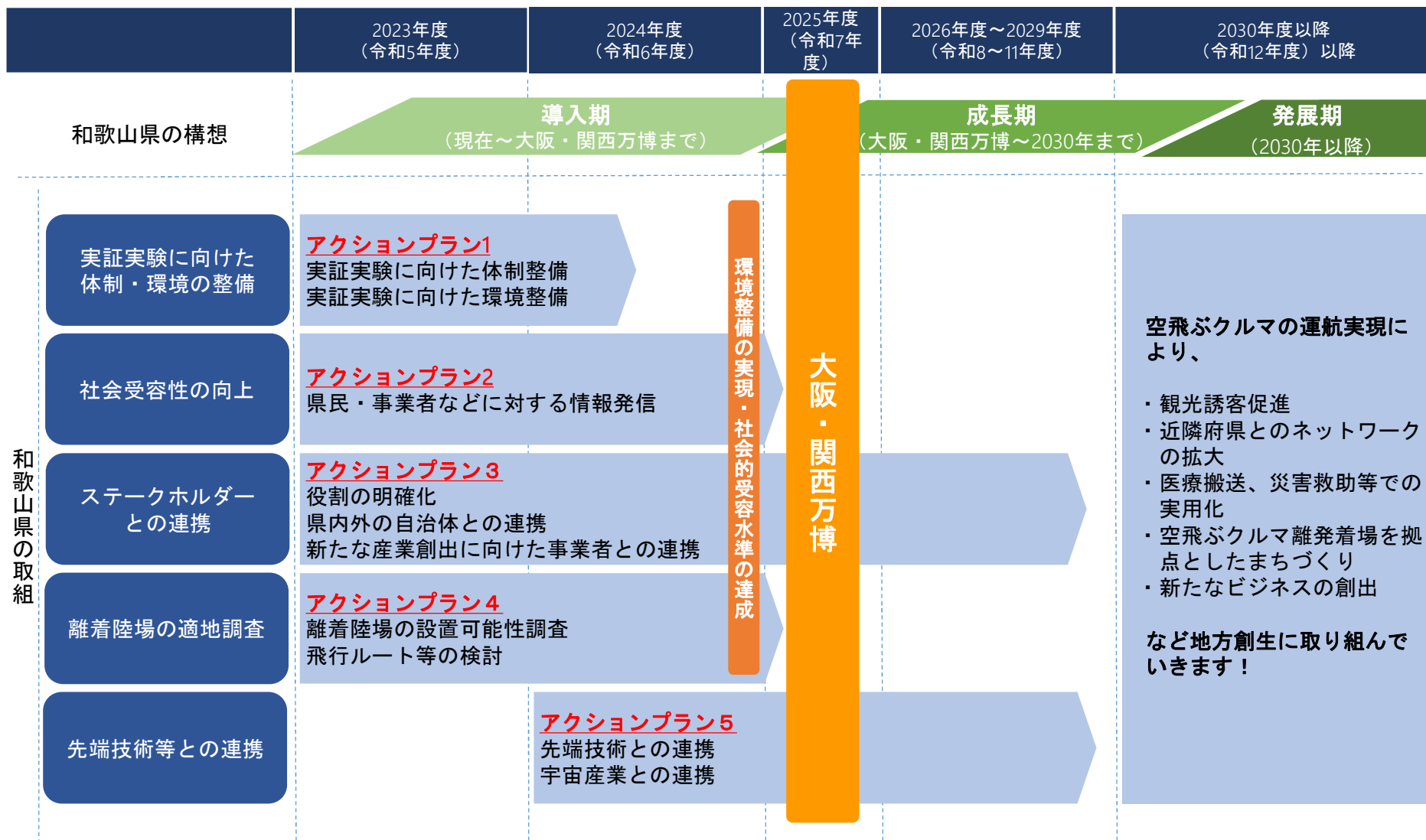


<空飛ぶクルマイメージ>



出展：経済産業省ウェブサイト
(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/aam_eng.html)

「空飛ぶクルマ」 運航実現に向けた和歌山県版ロードマップ・アクションプラン



和歌山県内での空飛ぶクルマ運航実現に向け、5つのアクションプランを掲げ、推進を図ります。
本アクションプランでは、主に2025年大阪・関西万博までに取り組むべきアクションを記しております。

地域振興

エリアでの万博出展

万博を契機に、振興局が中心となり地域の魅力を創出（万博会場にて出展）

- ◆出展例：
 - ・大学と県内地域の連携プロジェクトにより商品やコンテンツを制作し、出展
 - ・伝統産業に関するプレゼンテーションやパフォーマンス

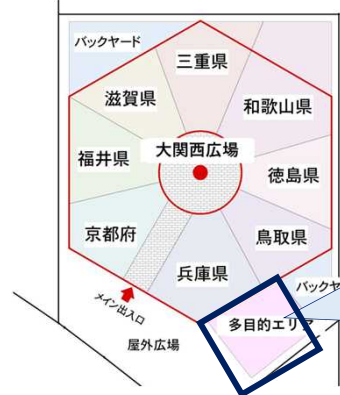


目的

- 地域コンテンツの担い手のSDGs等への関心の醸成
- 地域資源の磨き上げ及び創出による誘客促進
- 万博後に繋がるよう、振興局が主体的に地域活性に資する取組を継続して推進する仕組み作り

【関西パビリオン内での出展について】

< 関西パビリオンイメージ >



多目的エリア：127.82㎡
100名程度収容可能

多目的エリアにおいて、
一定期間、各エリアが主体
となり、地域の魅力をPR

(提供：関西広域連合)

地域振興

子供（学生・生徒・児童）の万博参加

県内学校の校外学習先を万博へ！

- ◆大阪・関西万博：「課題解決型万博」であり、地球規模の課題に対して世界中の英知が集結する場



目的

- 将来直面する課題に対する子供達の関心度の向上
- 国際意識の向上によるグローバル人材の育成



実現に向け

県内の小・中学生を対象に、地理的・経済的条件に左右されず、学校行事の一環として万博参加できるよう、
入場チケットの予約や日程調整等、市町村教育委員会及び各学校との連携を図る

【その他の万博参加例】

- ・万博を契機に学生等と連携した新たな地域の魅力創出 など

※高等教育共創コンソーシアム和歌山、和歌山県及び公益社団法人2025年日本国際博覧会協会との連携推進に関する協定を締結（令和5年11月24日）

機運醸成

万博の成功に向け、県内全体で万博を盛り上げることが重要

機運醸成

- 自治体だけではなく、産官学金の団体も連携し万博を盛り上げるため、「2025年国際博覧会和歌山推進協議会（※）」を設立

※2025年国際博覧会和歌山推進協議会とは

万博の成功に向け、機運醸成を推進し、県内への誘客促進や企業等への情報発信を目的に、和歌山県商工会議所連合会及び和歌山県が共同代表となり、産学官金などの団体により構成された組織

- 機運醸成イベントの開催

令和4年度：「2025年大阪・関西万博 機運醸成シンポジウム」開催
(R4.4.29 和歌山県民文化会館大ホール)

令和5年度：「2025年大阪・関西万博 500日前イベント」開催
(R5.11.23 海南市民交流センター ふれあいホール)

- 県内各地域のイベントなどへの出展

- 広報媒体等を活用した周知

情報発信

- メールマガジンを活用したダイレクトな万博関連情報発信

- セミナーの開催



その他【誘客への取組】

◆ダイヤモンドイヤー（※）など、ビッグイベントを活用した機運醸成

※2023年弘法大師御誕生1250年、2024年世界遺産登録20周年、2025年大阪・関西万博

国内からの誘客

- 国内誘客に向けた商品造成と誘客プロモーションの実施
 - ・滞在期間延長と消費拡大を目指した体験コンテンツの掘り起こしと磨き上げ
 - ・首都圏・京阪神を中心とした情報発信、教育旅行等の誘致活動
 - ・博覧会協会と連携した誘客プロモーションの実施

海外からの誘客

- 国ごとに万博×和歌山周遊プランを作成し、旅行会社・メディアに売り込み
 - ・海外の旅行会社・メディアを集中的に訪問、旅行博覧会などに出展
 - ・県内事業者と海外事業者との商談会を実施
 - ・世界的メディアを活用した情報発信
 - ・サステイナブルツーリズム、アドベンチャーツーリズム、高付加価値旅行等の推進
 - ・チャーター便・クルーズ船の誘致

※博覧会協会が設ける「万博ポータルサイト」を活用した誘客プロモーション
(ティザーサイト：<https://www.expo2025travel.jp/>)

その他【国際交流プログラムへの取組】

万博を契機とした国際交流による交流人口の増加及びグローバル人材の育成醸成

内容

- 和歌山県内の各地域と関係性のある、または今後関係性を築きたい万博参加国を招聘し、各地の文化や産業などで交流を深め、地域の活性化につなげる
- 万博開催を機に来日する海外青少年と県内学校の生徒との事前のオンライン交流や来県時の学校訪問により相互交流する機会を創出すると共に、和歌山県の自然・人・産業・食・文化などを体験させる

【学生交流イメージ】

①オンライン交流

- ・オンラインで県内学校と交流（和歌山や各学校の紹介など）



②万博会場での学び

- ・万博の和歌山ゾーンや催事にて、和歌山の文化・産業・観光資源などに触れることで、和歌山への理解度を深める



③リアルな和歌山体験

- ・県内学校との交流（万博テーマに沿った意見交換など。ex. SDGs）
- ・農家民泊による和歌山の自然体験
- ・高野山や那智の滝など観光地訪問